江戸時代、江戸と大坂を結ぶ海上交通の要所「風待ち港」として栄えた下田港。「伊豆の下田に長居はおよし、縞の財布が軽くなる」と唄われる民謡下田節の一節からもその賑わいぶりがうかがえます。そんな歴史を持つ下田港に面したまどが浜海遊公園を会場に、毎年行われている花の風車のイベント「風の花祭り」は、春の下田の風物詩といわれるほどに定着してきました。

海からの風を受け、勢いよく回る花の風車が春の下田を彩ります

きっかけは水仙の花の風車

平成17年に始まった観光協会主催の花の風車を使ったイベント「風の花祭り」。

きっかけは、平成16年2月、静岡市駿府公園内の紅葉山庭園で行われた静岡市内の小・中学生などが作った花の風車を飾るイベント「風の庭園」を紹介する新聞記事でした。

記事に添えられた写真には満開の水仙の花と見間違うほどの水仙を模った花の風車。この記事を見た同協会関係者が現地を視察し、主催の静岡市役所に問い合わせ、このイベントをプロデュースしたペーパーアーティスト広井敏通さんを知りました。「こんなイベントをぜひ下田でもやってみたい」と3月上旬に、広井さんを訪ね、協力を依頼し、作り方の指導などをしていただけることになりました。

花の風車大作戦

観光協会では、風待ち港としての歴史やあじさい・水仙祭りなどをPRできる、子供たちを中心としたイベントとして開催しようと、プロジェクト委員会を立ち上げました。4月には広井さんを招き、花の風車作りの市民講習会を開催し、参加した学校関係の方々からは、「児童・生徒に作らせたい」と反響も大きく、この風車作りを授業に取り入れてもらえることも決定。5月の黒船祭では、プロジェクト委員や市民の協力で作った700個の風車をパレードで初披露しました。

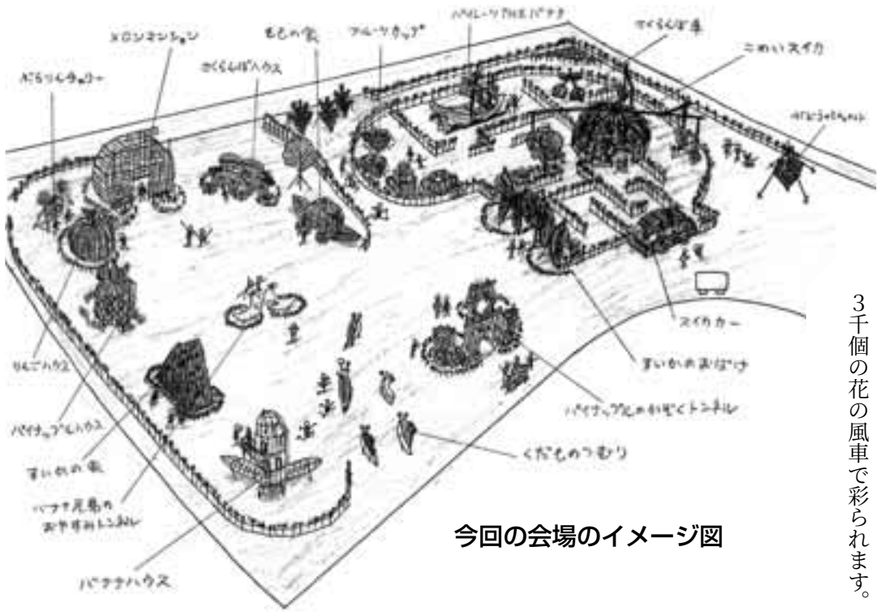
第1回は7,000個の風車

11月から行われた小・中学校での作製では、講習会などで作り方を学んだボランティアの市民講師が子供たちに作り方の指導をしてくれました。また、一般の市民の皆さんにも作製の協力を呼びかけ、最終的には15種7,000個の花の風車が完成、ボランティアの皆さんにより会場のまどが浜海遊公園に飾り付けられ、平成17年3月19日から約20日間、第1回「風の花祭り」が開催されました。

第5回 風の花祭り

今年のテーマは「フルーツパーク」

第5回風の花祭りは、「フルーツパーク」をテーマに3月20日から4月12日まで開催されます。スイカやリンゴの家、バナナの海賊船などのモニュメントが20種・約1万3千個の花の風車で彩られます。



今回の会場のイメージ図

子供たちがイベントの主役です

このイベントに使われる花の風車は、昨年の11月から今年1月にかけて、市内の保育所・幼稚園の園児、小学生、中学生が作りました。

保育所・幼稚園児は、牛乳パックを使って作ったヤグルマギクの風車を作製。

4・5歳児は「こわいスイカ」のドーム内に飾る"フルーツお化け"の絵も描きました。

また、今回初めて姉妹都市の群馬県沼田市の小学生も参加、沼田小学校の5年生74人が沼田市の花である「桔梗」の風車306個を作ってくれました。この風車は大きな葡萄のモニュメントに取り付けられます。

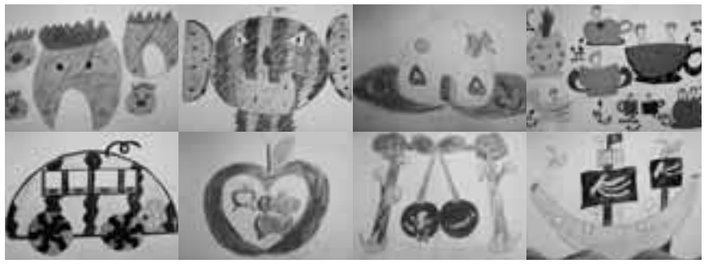
小・中学校ではボランティアの市民講師が生徒に作り方の指導をしてくれました。

作製も今年で5回目。子供たちは慣れた手つきでハサミを使って作っています。

子供たちの描いた夢が形に!

会場に並ぶフルーツのモニュメントのデザインは市内の小・中学校の児童、生徒から募集しました。

子供たちが描いた約700点のデザイン画の中から17点を選定し、そのデザインをもとに広井さんが立体化して設計。竹を使った大きなモニュメントにくみ上げます。


小・中学校の児童、生徒が描いた夢いっぱいのデザイン画